

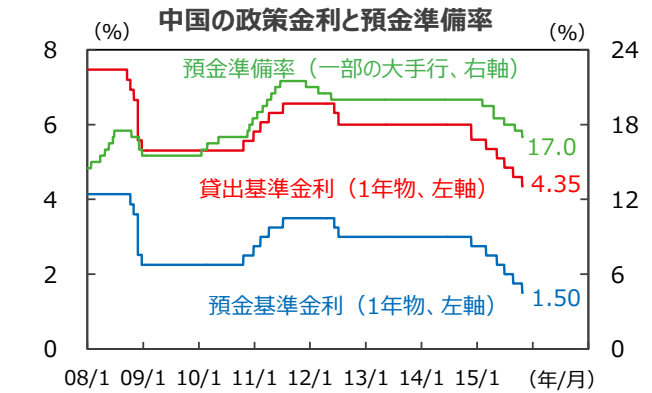
今日のトピック

中国は追加金融緩和と預金金利の自由化を発表

ポイント1 政策金利と預金準備率を同時に引き下げ 預金金利の自由化も発表

■ 中国人民銀行（中央銀行）は23日、政策金利と預金準備率をともに引き下げると発表しました。政策金利である貸出基準金利（期間1年）は0.25%引き下げ4.35%とし、預金準備率は0.50%引き下げ、一部の大手行向けを17.0%としました。

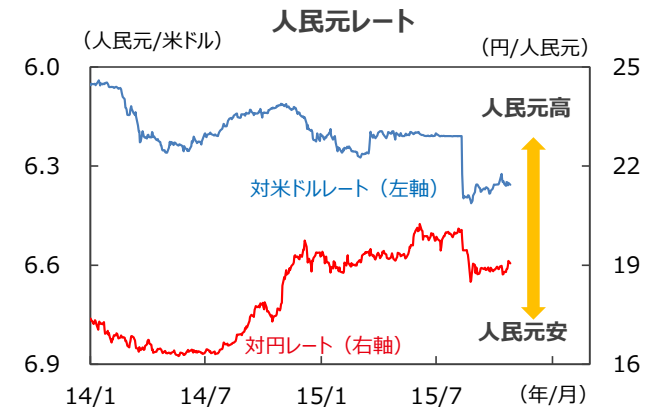
■ また、預金金利はこれまで基準金利の1.5倍を上限としていましたが、これを撤廃し金利を自由化しました。ただし、中央銀行が市場金利を誘導する仕組みの定着には時間がかかるとし、これまで通り預金基準金利の公表を継続し、今回は0.25%引き下げて1.50%としました。



(注) データは2008年1月1日～2015年10月26日。
(出所) Bloomberg L.P.などのデータを基に三井住友アセットマネジメント作成

ポイント2 投資減速に対応 物価上昇率低下も背景

■ 中国人民銀行は声明で、国際的な商品価格の下落や国内の投資減速に対応し、流動性を潤沢に供給するとしました。9月の消費者物価上昇率が低下し、利下げがやりやすくなったことも今回の利下げを後押ししました。



(注) データは2014年1月1日～2015年10月26日。
(出所) Bloomberg L.P.のデータを基に三井住友アセットマネジメント作成

今後の展開 公共投資強化やさらなる金融緩和による景気下支えを期待

■ 中国は人民元が国際通貨基金（IMF）の特別引出権（SDR）に採用されることを目指し、預金金利の自由化などを進めています。8月のSDR見直しでは、貿易量基準では要件を満たしたものの、取引自由度の基準で結論が先送りされていました。SDR採用の狙いは、人民元の国際的なプレゼンス向上や人民元建て決済拡大による貿易や金融取引の促進です。

■ 景気減速に対処するため、景気刺激策の強化が今後も見込まれます。次期5カ年計画でサービス業を中心とした経済構造への転換を促進するため、公共投資や規制緩和の拡充が一層見込まれます。企業の資金調達環境の改善のため、さらなる追加金融緩和も期待されます。

ここもチェック! 2015年10月21日 最近の指標から見る中国経済（2015年10月）
2015年10月21日 「中国版新幹線」売り込みと一帯一路（中国）

■ 当資料は、情報提供を目的として、三井住友アセットマネジメントが作成したものです。特定の投資信託、生命保険、株式、債券等の売買を推奨・勧誘するものではありません。■ 当資料に基づいて取られた投資行動の結果については、当社は責任を負いません。■ 当資料の内容は作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。■ 当資料に市場環境等についてのデータ・分析等が含まれる場合、それらは過去の実績及び将来の予想であり、今後の市場環境等を保証するものではありません。■ 当資料は当社が信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■ 当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。■ 当資料に掲載されている写真がある場合、写真はイメージであり、本文とは関係ない場合があります。